

## 資料 2-8 (1)

### 全学テーマ別評価「国際的な連携及び交流活動」に係る 評価者の研修について

#### 1 目 的

大学評価・学位授与機構が行う大学評価をより実効性の高いものとするためには、客観的な立場からの専門的な判断を基礎とした信頼性の高い評価を行う必要があることから、大学評価の目的、内容及び方法等について十分な自己研修を行うことにより、評価担当者全体として共通理解を図り、公正、適切かつ円滑な職務の遂行に資することを目的とする。

#### 2 主 催

国際的な連携及び交流活動に関する専門委員会

#### 3 実 施 日

##### (1) 第1回研修

対 象 者：専門委員会委員及び評価員（別添1）

開 催 日：7月15日（火）、25日（金）、30日（水）、8月1日（金）

時 間：13:00～18:00

場 所：学術総合センター

内 容：評価の基本的な内容・方法等に関すること

##### (2) 第2回研修

対 象 者：専門委員会委員及び評価員（別添2）

開 催 日：8月18日（月）、19日（火）、21日（木）、26日（火）、27日（水）

時 間：13:00～18:00

場 所：学術総合センター

内 容：評価の具体的な手順・作業内容等に関すること

## 国際的な連携及び交流活動に関する研修の内容について

## 第 1 回研修 評価の基本的な内容・方法等に関する研修

- |   |   |       |
|---|---|-------|
| ( 1 ) 開会・機構長挨拶等   | } | (10分) |
| ( 2 ) 専門委員会主査(又は副主査)挨拶  |   |       |
| ( 3 ) 専門委員会でのこれまでの検討経緯<br>機構の沿革について〔機構の発足, 設置目的等〕<br>専門委員会の設置の目的及び位置づけについて<br>専門委員会における検討の経緯について                    |   |       |
| ( 4 ) 全学テーマ別評価の内容・方法について  |   | (60分) |
| 機構において行う評価の実施方針について<br>全学テーマ「国際的な連携及び交流活動」について<br>対象機関における自己評価の方法について<br>事前調査結果について<br>機構の行う評価の内容・方法について<br>質疑応答    |   |       |
| ( 5 ) 休憩  |   | (10分) |
| ( 6 ) 評価作業の実際について   |   | (90分) |
| 評価チームにおける委員の分担・役割について<br>書面調査及びヒアリングの作業内容・手順について<br>「チェックシート(仮称)」の記載内容・方法等について<br>平成13年度着手の評価の経験と機構の対応等について<br>質疑応答 |   |       |
| ( 7 ) 休憩  |   | (10分) |
| ( 8 ) 国際連携・交流活動の内容・状況について   |   | (60分) |
| 留学生に関する大学等の状況<br>国際共同研究における大学等の状況<br>国際協力における大学等の状況   |   |       |
| ( 9 ) 質疑応答  |   | (30分) |
| (10) 当面の評価作業スケジュール及び作業方法等の確認(各チーム単位で実施)   |   | (30分) |

## 第 2 回研修 評価の具体的な手順・作業内容等に関する研修

- |   |   |        |
|---|---|--------|
| ( 1 ) 開会・専門委員会主査(又は副主査)挨拶等  | } | (130分) |
| ( 2 ) 書面調査及びヒアリングの内容・方法等について  |   |        |
| ( 3 ) 評価作業の実際について<br>対象となる活動等について<br>「評価シート(仮称)」の記載内容・方法等について                 |   |        |
| ( 4 ) 質疑応答  |   | (30分)  |
| ( 5 ) 休憩  |   | (10分)  |
| ( 6 ) 第 1 回評価チーム打合せ   |   | (120分) |
| 「チェックシート(仮称)」による根拠資料・データ, 対象とならない活動, 目的<br>及び目標の確認<br>今後評価シートを作成していく上で問題点等の検討 |   |        |

## 資料 2-8 (3) 研修時配付資料一覧

【全学テーマ別評価「国際的な連携及び交流活動」】

### 第 1 回研修

#### (配付資料)

- ・ 評価に係るこれまでの経緯について
- ・ 専門委員会におけるこれまでの検討の経緯
- ・ 平成 13 年度着手の大学評価に関する対象機関等からの意見について
- ・ 評価関係資料

#### (参考資料)

- ・ 大学評価・学位授与機構概要（平成 15 年度版）
- ・ 「研究活動面における社会との連携及び協力」評価報告書（抜粋）
- ・ 国際交流パンフレット

#### 評価関係資料の内訳

##### 【評価マニュアル】

- 1 平成 14 年度に着手する大学評価の内容・方法等について
- 2 自己評価実施要項（改訂版）
- 3 自己評価説明資料
- 4 自己評価に関する Q & A
- 5 平成 14 年度着手の大学評価に関する説明会質疑応答等
- 6 統合予定の国立大学における評価作業について
- 7 評価実施手引書（改訂版）
- 8 評価作業マニュアル
- 9 全学テーマ別評価「国際的な連携及び交流活動」に関するチェックシート
- 10 全学テーマ別評価「国際的な連携及び交流活動」に関する評価シート
- 11 目的及び目標に関する事前調査結果
- 12 国際連携・交流活動の内容・状況に関する参考資料

##### 【サンプル】

...第 2 回研修時に配付

- 13 自己評価書サンプル
- 14 チェックシート及び評価シートサンプル
- 15 評価報告書サンプル

##### 【チーム編成及びヒアリング】

- 16 国際的な連携及び交流活動に関する専門委員会評価チーム編成
- 17 評価チームにおける委員の分担及びヒアリング担当委員
- 18 ヒアリングを担当する委員の編成等について
- 19 ヒアリング日程一覧

##### 【スケジュール】

- 20 国際連携に関する今後のスケジュール
- 21 評価チームスケジュール表

##### 【その他】

- 22 評価に関する文書・情報の取扱いについて
- 23 国際的な連携及び交流活動に関する専門委員会委員・評価員名簿
- 24 評価チーム連絡先一覧表

## 第2回研修

### (配付資料)

- ・ 評価作業上の留意点
- ・ サンプルによるシミュレーション
- ・ 観点ごとの判断の目安(案)
- ・ 評価項目ごとの水準の判断の目安(案)

### (参考資料)

- ・ ヒアリング参考資料
- ・ ヒアリング進行メモ
- ・ ヒアリングにおける確認事項等

# 第1回研修資料

平成14年度着手全学テーマ別評価

**国際的な連携及び交流活動**

**第1回研修**

2003年7月

**大学評価の概要** (Cf. 大学評価・学位授与機構概要 p.8)

The diagram illustrates the flow from evaluation to accreditation and back to institutional improvement. It includes sections for 'University Evaluation and Accreditation' (大学評価・学位授与機構), 'Evaluation' (評価), and 'Accreditation' (学位授与). A central box highlights 'Institutional Improvement through Multiple Evaluation Methods' (複数評価手法による多面的評価). Below this, three categories are listed: 'Self-evaluation' (自己評価), 'External Evaluation' (外部評価), and 'Accreditation' (学位授与).

**評価プロセスと評価関係資料の関係**

**評価プロセス**

1. 評価計画の策定 (Evaluation Plan Development) → 2. 評価の実施 (Evaluation Implementation) → 3. 評価結果の分析 (Evaluation Result Analysis) → 4. 改善策の立案 (Improvement Strategy Formulation) → 5. 改善の実施 (Improvement Implementation)

(機構概要 p.9)

大学評価実施大綱 (大学評価の内容・方法について) [ 1 ]  
 自己評価実施要項 + 説明会資料 [ 2 ~ 6 ]  
 評価実施手引書 + 評価作業マニュアル等 [ 7 ~ 10 ]

**機構の大学評価の特徴** ( [ 1] 大綱から )

**評価の目的** ( [ 1] 大綱 p.1 )

(1) 大学の教育研究 **活動の改善** に役立てる  
*Measure としての評価*  
 vs. *Prompter としての評価*

(2) 社会に **わかりやすく示す**  
 広く **理解と支持** を得る  
*Accountability*

**評価の方法**

(1) 複数の手法による **多面的評価** ( [ 1] 大綱 p.1 )  
 3区分の評価 (全学テーマ・分野別教育・分野別研究)  
 複数手法 (書面調査・ヒアリング等)  
 3評価項目 (実施体制・内容及び方法・実績及び効果)

(2) 大学の **「目的」「目標」** に即した評価 (p.2)  
 大学の個性

(3) 大学の主体的な取り組みを支援・促進 (p.3)  
 = **自己評価** 中心の評価

**機構における「目的」「目標」の階層的定義** (p.2)

目的 : 取組・活動の全体的な意図  
 目標 : 目的を達成するための具体的な課題

```

    graph TD
        A[目的 1] --- B[目標 1]
        A --- C[目標 2]
        B --- D[活動 1]
        B --- E[活動 2]
        C --- F[活動 3]
    
```

### Cf. 大学の改善に資する評価

- 大学間の比較（「相対評価」・ランキング）ではない  
大学の特徴を浮き彫りにする「質的」評価中心
- 大学の目的・目標の「高低」は基本的に評価しない  
活動の改善・促進の原点に立ち返る評価
- 改善の施策・方法などを具体的に示す必要はない  
評価結果に基づいて大学自身が改善を試みる  
適切な自己評価が促進されるよう誘導する

### 『国際連携』の大学における自己評価

〔2〕自己評価実施要項から）

評価対象機関：115 機関 〔2〕要項 p.8）  
97 国立大学・14 大学共同利用機関・4 公立大学

#### 自己評価のスケジュール 〔2〕要項 p.8 等）

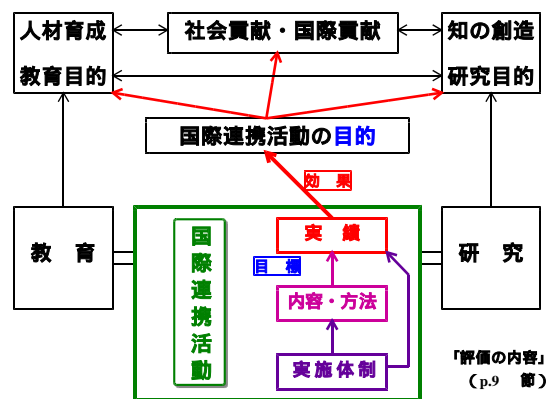
- 1月下旬：自己評価実施要項の提示・説明会
- 4月中旬：事前調査回答の提出
- 7月末：自己評価書の提出

### 評価の対象となる取組・活動 〔2〕要項 p.9）

全学的な方針の下に行われている活動

「国際連携・交流」活動

- 他の区分の評価（教育評価・研究評価）の対象を基本的に含める必要はない
- 他の全学テーマの評価視点を採用する必要はない



### 自己評価のプロセス 〔2〕要項 p.12）

目的及び目標の整理 〔2〕要項 p.13）

評価の対象となる活動の整理 ( p.14 ~ 15 )  
活動分類の構成 + 活動と目標の対応関係

過去5年間（原則として）の活動の意図・趣旨を整理

以上を「事前調査」として4月中旬に提出 ( p.16 )

〔11〕事前調査結果として全般的特徴をフィードバック

### 活動分類の整理の状況

〔11〕事前調査結果 p.5 から）

| 機構が例示した活動分類        | 数   |
|--------------------|-----|
| 教職員等の受入れ・派遣        | 106 |
| 教育・学生交流            | 101 |
| 国際会議等の開催・参加        | 100 |
| 国際共同研究の実施・参画       | 102 |
| 開発途上国等への国際協力       | 91  |
| 大学等が独自に設定した「活動の分類」 | 60  |
| 「地域の国際化」           |     |
| 「芸術・体育面等」          |     |
| 「国際交流基盤形成」等        |     |

## 活動分類単位の自己評価

**項目別評価** ([ 2 ] 要項 p.16)

実施体制  
内容・方法  
実績・効果

**観点の設定** ([ 2 ] 要項 p.39 参照)

各項目を分析的に状況記述  
3段階評価による「判断」  
「優れている」「相応である」「問題がある」

**着目点の設定**

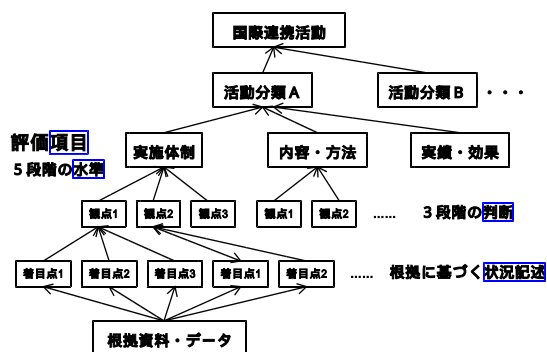
観点に関する分析的状況記述

**根拠資料・データによる裏付け**

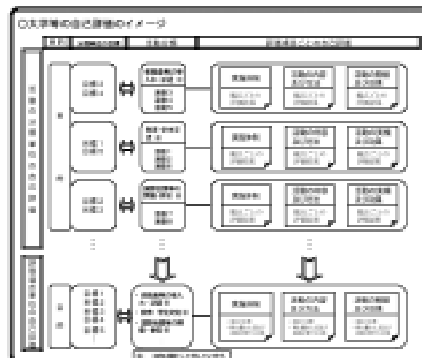
量的データのみならず  
質的データ(感想・コメント等)も可  
観点の判断を説得的に説明できればよい

**補足説明事項**

観点・着目点の独自設定理由  
根拠資料・データ不足状況  
より進んだ改善点=目標の変更の要 など



## 評価項目単位の自己評価 ([ 2 ] 要項 p.19)



**「水準」の判定**

評価項目ごとに5段階評価

「十分～」、「おおむね～」、「相応に～」  
「ある程度～」、「ほとんど～ない」

活動分類を通して総合的にみた水準  
活動分類全体の中心的レベル

**特徴点の抽出**・・・評価結果の重要な部分

特色ある取組・特に優れた点・  
改善を要する点・問題点

活動のバラエティを表現  
国際連携活動の具体的特徴を表現

**評価項目単位の自己評価での留意点**

([ 1 ] 事前調査結果 p.11 (4) )

いくつかの「活動分類単位」を通じた状況記述等

「水準の判断に当たったの考慮事項」の欄  
「特に優れた点及び改善を要する点等」の欄  
に別途記載可

## 特記事項の整理 (〔2〕要項 p.19)

評価とは別の位置付け

自己評価を通じて明らかになった  
全学的改革課題・将来構想等の展望

そのまま評価報告書に転載

## 自己評価におけるその他の留意点

(〔11〕事前調査結果 p.10～11)

「活動の分類単位」の自己評価の字数制限  
30,000字から最大**50,000字程度に緩和**

事前調査 : 「活動の分類」の数 = 5.36 / 機関  
「個別活動」の数 = 21.0 / 機関

「各大学等の教育研究活動の改善」に資する評価を  
改善を志そうとしている活動を重点的に  
改善に向けての真摯な評価結果  
社会の理解・支援が得られる

## 『国際連携』の機構の評価

(〔8〕評価作業マニュアルから)

評価作業の実施体制 (〔8〕マニュアル p.2)

評価チーム 専門委員 + 評価員

チーム主査・チーム副主査(専門委員)

主担: 大学の評価結果のとりまとめを担当

副担: 主担を補佐

Cf. 評価関係資料[16]・[17] (取扱注意資料)

## 評価作業のプロセス p.4・5 作業の流れ

書面調査 7～12月

ヒアリング 11・12月

評価結果原案の作成 11～1月

} p.6 作業の流れ

意見申立てへの対応 3月

評価報告書の作成 3月下旬

評価チーム打合せ

評価チーム主査会議

専門委員会

## 書面調査 (〔8〕マニュアルから p.8)

チェックシート1 ) 主担・副担 共通作業  
チェックシート2 )

評価シート 主担 副担 (check)

評価シート(ヒアリング用) (事務局にて構成)

評価シート(評価結果原案作成用) 完成  
主担 副担 (check)

評価結果原案 (事務局にて構成) 主担 (check)

## チェックシート1による作業

(〔8〕マニュアル p.10 & [14]チェックシート1サンプル)

大学への確認事項をとりまとめる (p.12)  
第1回評価チーム打合せで確定

確認事項を抽出する視点 (p.13)

- (1) 目的・目標の記述
- (2) 「観点」等の有無
- (3) 根拠資料の有無

評価できない点が多い場合に早めに関わり合わせる  
ヒアリング時の大学の確認作業の軽減のため



評価関係資料〔14〕 チェックシート1サンプル

（各学年初期評価の記録用紙を2枚作成する。）

| 学年/学期           | 大学                 | 学部/系 | 学科  | 授業科目 | 評価  | 大塚 謙司 |
|-----------------|--------------------|------|-----|------|-----|-------|
| 評価項目の具体的な記述について |                    |      |     |      |     |       |
| チェック項目          |                    |      |     |      |     |       |
| 1               | 評価項目の記述が明確かつ具体的である | 評価1  | 評価2 | 評価3  | 評価4 | 評価5   |
| 2               | 評価項目の記述が明確かつ具体的である | 評価1  | 評価2 | 評価3  | 評価4 | 評価5   |
| 3               | 評価項目の記述が明確かつ具体的である | 評価1  | 評価2 | 評価3  | 評価4 | 評価5   |
| 4               | 評価項目の記述が明確かつ具体的である | 評価1  | 評価2 | 評価3  | 評価4 | 評価5   |
| 5               | 評価項目の記述が明確かつ具体的である | 評価1  | 評価2 | 評価3  | 評価4 | 評価5   |
| 6               | 評価項目の記述が明確かつ具体的である | 評価1  | 評価2 | 評価3  | 評価4 | 評価5   |
| 7               | 評価項目の記述が明確かつ具体的である | 評価1  | 評価2 | 評価3  | 評価4 | 評価5   |
| 8               | 評価項目の記述が明確かつ具体的である | 評価1  | 評価2 | 評価3  | 評価4 | 評価5   |
| 9               | 評価項目の記述が明確かつ具体的である | 評価1  | 評価2 | 評価3  | 評価4 | 評価5   |
| 10              | 評価項目の記述が明確かつ具体的である | 評価1  | 評価2 | 評価3  | 評価4 | 評価5   |
| 11              | 評価項目の記述が明確かつ具体的である | 評価1  | 評価2 | 評価3  | 評価4 | 評価5   |
| 12              | 評価項目の記述が明確かつ具体的である | 評価1  | 評価2 | 評価3  | 評価4 | 評価5   |
| 13              | 評価項目の記述が明確かつ具体的である | 評価1  | 評価2 | 評価3  | 評価4 | 評価5   |
| 14              | 評価項目の記述が明確かつ具体的である | 評価1  | 評価2 | 評価3  | 評価4 | 評価5   |
| 15              | 評価項目の記述が明確かつ具体的である | 評価1  | 評価2 | 評価3  | 評価4 | 評価5   |
| 16              | 評価項目の記述が明確かつ具体的である | 評価1  | 評価2 | 評価3  | 評価4 | 評価5   |
| 17              | 評価項目の記述が明確かつ具体的である | 評価1  | 評価2 | 評価3  | 評価4 | 評価5   |
| 18              | 評価項目の記述が明確かつ具体的である | 評価1  | 評価2 | 評価3  | 評価4 | 評価5   |
| 19              | 評価項目の記述が明確かつ具体的である | 評価1  | 評価2 | 評価3  | 評価4 | 評価5   |
| 20              | 評価項目の記述が明確かつ具体的である | 評価1  | 評価2 | 評価3  | 評価4 | 評価5   |
| その他（評価項目の追加等）   |                    |      |     |      |     |       |

評価項目の具体的な記述について

|    |                    |     |     |     |     |     |
|----|--------------------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 1  | 評価項目の記述が明確かつ具体的である | 評価1 | 評価2 | 評価3 | 評価4 | 評価5 |
| 2  | 評価項目の記述が明確かつ具体的である | 評価1 | 評価2 | 評価3 | 評価4 | 評価5 |
| 3  | 評価項目の記述が明確かつ具体的である | 評価1 | 評価2 | 評価3 | 評価4 | 評価5 |
| 4  | 評価項目の記述が明確かつ具体的である | 評価1 | 評価2 | 評価3 | 評価4 | 評価5 |
| 5  | 評価項目の記述が明確かつ具体的である | 評価1 | 評価2 | 評価3 | 評価4 | 評価5 |
| 6  | 評価項目の記述が明確かつ具体的である | 評価1 | 評価2 | 評価3 | 評価4 | 評価5 |
| 7  | 評価項目の記述が明確かつ具体的である | 評価1 | 評価2 | 評価3 | 評価4 | 評価5 |
| 8  | 評価項目の記述が明確かつ具体的である | 評価1 | 評価2 | 評価3 | 評価4 | 評価5 |
| 9  | 評価項目の記述が明確かつ具体的である | 評価1 | 評価2 | 評価3 | 評価4 | 評価5 |
| 10 | 評価項目の記述が明確かつ具体的である | 評価1 | 評価2 | 評価3 | 評価4 | 評価5 |
| 11 | 評価項目の記述が明確かつ具体的である | 評価1 | 評価2 | 評価3 | 評価4 | 評価5 |
| 12 | 評価項目の記述が明確かつ具体的である | 評価1 | 評価2 | 評価3 | 評価4 | 評価5 |
| 13 | 評価項目の記述が明確かつ具体的である | 評価1 | 評価2 | 評価3 | 評価4 | 評価5 |
| 14 | 評価項目の記述が明確かつ具体的である | 評価1 | 評価2 | 評価3 | 評価4 | 評価5 |
| 15 | 評価項目の記述が明確かつ具体的である | 評価1 | 評価2 | 評価3 | 評価4 | 評価5 |
| 16 | 評価項目の記述が明確かつ具体的である | 評価1 | 評価2 | 評価3 | 評価4 | 評価5 |
| 17 | 評価項目の記述が明確かつ具体的である | 評価1 | 評価2 | 評価3 | 評価4 | 評価5 |
| 18 | 評価項目の記述が明確かつ具体的である | 評価1 | 評価2 | 評価3 | 評価4 | 評価5 |
| 19 | 評価項目の記述が明確かつ具体的である | 評価1 | 評価2 | 評価3 | 評価4 | 評価5 |
| 20 | 評価項目の記述が明確かつ具体的である | 評価1 | 評価2 | 評価3 | 評価4 | 評価5 |

**目的・目標の記述の留意点**  
 （〔I1〕事前調査結果 p.4）

「目的・目標」は「評価基準」としての位置づけ

将来的に行う予定の活動の意図や趣旨ではない  
 活動の状況そのものを記述するものではない  
 「現在」行っている個別活動の具体的な課題  
 どのような成果を具体的に得ようとしていたのか

「目標」の記述は明確かつ具体的に（〔I1〕事前調査結果 p.4）

「定量的」な「目標」はほとんどないが・・・  
 「定性的目標」も有効な場合もある  
 「改善に資する有効な評価」が可能な表現で  
 「目標」をわかりやすく記述すること を要請

「充実させる」、「努める」、「図る」等の表現  
 具体的とは言いづらいが・・・  
 根拠資料・データによって  
 説得的な評価結果へと導く工夫 を要請

「目標」は「成果的」なものを中心に（〔I1〕事前調査結果 p.4）

インプットの・プロセス的「目標」が含まれる  
 体制の整備、資源・環境などの確保、  
 内容・方法などの工夫など  
 成果的な目標達成への貢献という観点から  
 「実施体制」、「内容・方法」の項目で評価可

「目標」の数を減らすことができる

**チェックシート2による作業**  
 （〔8〕マニュアル p.14 & 〔14〕チェックシート2サンプル）

= **活動分類ごとの項目別・観点別評価**  
 「主担」が評価結果をとりまとめるための下作業  
 主担・副担が平行して作業

（1）**観点ごとに、着目点の状況分析**を通して、  
 「優れている」  
 「相応である」  
 「問題がある」  
 「分析不能」などのチェック

（2）不明点などの抽出 ヒアリングへ

（3）対象外と思われる活動の抽出 （ p.16 ）

評価関係資料〔14〕 チェックシート2サンプル

自己評価結果の記述用チェックシート2  
（各学部・学域評価「国際的な連携及び国際性」）

学部/学域名: \_\_\_\_\_ 年度: \_\_\_\_\_ 評価年度: \_\_\_\_\_

活動の種類: 国際教育の受け入れ・派遣

評価の観点: 国際化の推進、国際連携の促進、国際人材の育成

評価の観点: 国際化の推進

評価の観点: 国際連携の促進

評価の観点: 国際人材の育成

評価の観点: 国際化の推進

評価の観点: 国際連携の促進

評価の観点: 国際人材の育成

評価の観点: 国際化の推進

評価の観点: 国際連携の促進

評価の観点: 国際人材の育成

自己評価結果の記述用チェックシート2  
（各学部・学域評価「国際的な連携及び国際性」）

学部/学域名: \_\_\_\_\_ 年度: \_\_\_\_\_ 評価年度: \_\_\_\_\_

活動の種類: 国際教育の受け入れ・派遣

評価の観点: 国際化の推進、国際連携の促進、国際人材の育成

評価の観点: 国際化の推進

評価の観点: 国際連携の促進

評価の観点: 国際人材の育成

評価の観点: 国際化の推進

評価の観点: 国際連携の促進

評価の観点: 国際人材の育成

評価の観点: 国際化の推進

評価の観点: 国際連携の促進

評価の観点: 国際人材の育成

**観点の判断**

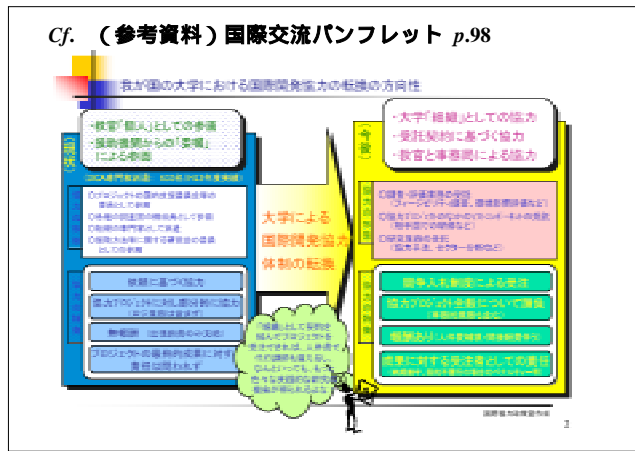
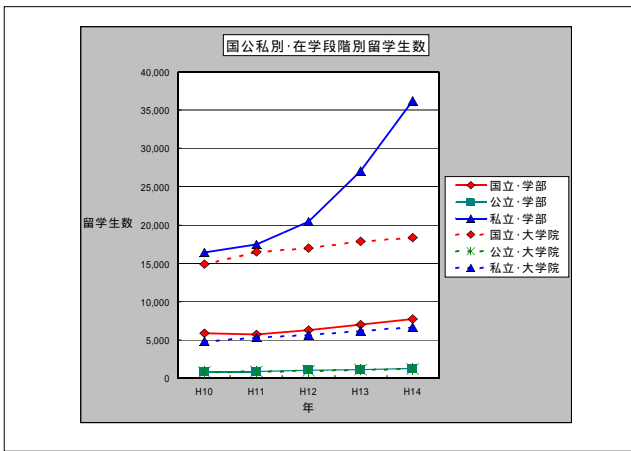
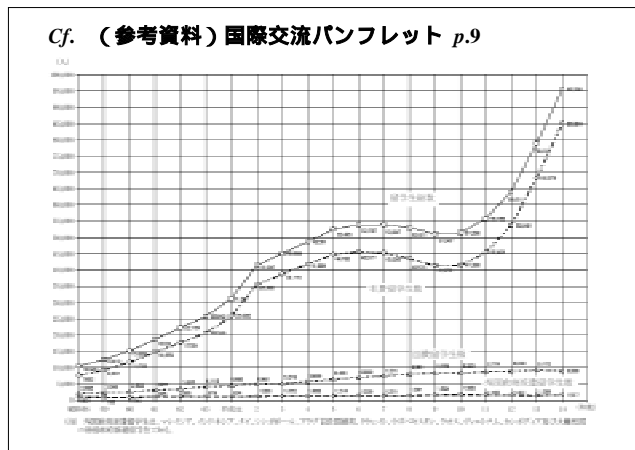
大学が掲げている「目標」「目的」が基準

よいところを伸ばし  
改善すべき点を改善する 評価の目的を配慮

特徴点を積極的に取り上げる

補足説明事項の記載を留意する ( p.16 )

個々の活動の背景を慎重に考慮



資料 [ 1 2 ]

『国際連携・交流活動の内容・状況に関する参考資料』

派遣・受入・留学生・国際シンポ・共同研究  
などの諸制度

Cf. 国際共同研究における「国際学術研究」「基礎研究」の変更 etc.

国際連携関係の用語集 Web 参照

ex. 国際協力事業団

年次評価報告書の  
事業評価関係  
用語解説の例

【注】

「国際共同研究」(International Joint Research)とは、我が国と外国との間で共同して実施される研究活動であり、共同研究費の共同拠出、共同研究費の共同管理、共同研究費の共同使用、共同研究成果の共同発表などが特徴である。

「国際共同研究」(International Joint Research)とは、我が国と外国との間で共同して実施される研究活動であり、共同研究費の共同拠出、共同研究費の共同管理、共同研究費の共同使用、共同研究成果の共同発表などが特徴である。

【注】

「国際共同研究」(International Joint Research)とは、我が国と外国との間で共同して実施される研究活動であり、共同研究費の共同拠出、共同研究費の共同管理、共同研究費の共同使用、共同研究成果の共同発表などが特徴である。

「国際共同研究」(International Joint Research)とは、我が国と外国との間で共同して実施される研究活動であり、共同研究費の共同拠出、共同研究費の共同管理、共同研究費の共同使用、共同研究成果の共同発表などが特徴である。

評価シートによる作業 [ 8 ] p.17 ~

大学等の改善が促進されるよう

社会にわかりやすいように を心がけつつ

評価結果を**記述**

ヒアリング時の確認事項を**抽出**する

第 2 回研修で解説

評価作業上の不明点等

**事務局へ**

**評価チーム**で共有

**チーム会議**等を通じ

**全員**で共有

大学評価システムの改善に向けて

評価担当者のアンケート

優れた自己評価書の抽出

評価上の問題点の指摘

評価作業の労力 等

ご協力、よろしくお願いいたします。